

隨泉寺寺報

平成19年(2007年) 5月号 第441号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

降誕会法座

講師 岩国 宗玄寺住職 嘉屋英嗣師

講題 「よろこび伝えよう」

『散りはてて 花のかげなき 木(こ)のもとに
たつことやすき 夏衣(なつごろも)かな』(新古177) 慈円 じえん
【通釈】散り果てて、桜の花の影もない木の下——立ち去ることも気安いな
あ、薄い夏衣に着替えた身には。

今年は桜の花も長い間楽しめました。お寺の境内にある桜の花はもう古木なの
でしょうか、半分ぐらいが枯れてきて花のつきようがあまりよくありませんで
した。枯れた枝は落としたほうがいいのか、そのままがいいのかわかりませんが、
『桜切る・・・』といいますがそのままにしてあります。いつ頃から植わっている
のか解りませんが、僕がここに入寺してから同じ様子でした。おそらくこの桜の
花を皆さんの先祖の方も眺めて、心を癒されていたことだと思います。お寺の前
のほこり広場の川土手に植えられた桜の苗は今年はいよいよ大きくなって、桜の
花もきれいに花をつけていました。もう4～5年もすれば花見が出来るぐらい成
長するでしょう。おばあちゃんも見た、おじいちゃんも見た桜の花、出来ること
ならなるべくこのまま花をつけてもらいたいと思いますが、いつかは枯れてしま
うことでしょう。

5月の法座予定

5月 8日.....掃除 長者原西
5月14日昼席午後1時より初参式・降誕会法座
5月14日夜席午後7時半より.....出張法座 長者原西集会所
5月15日朝席午前10時より.....降誕会法座 門信徒会総会 おとき
5月15日昼席午後1時より.....降誕会法座
6月 2日午後6時より.....門信徒会本部役員会

☆降誕会 初参式

平安時代の末期承安3年(1173年)5月21日、京都の南の郊外、日野というところで親
鸞聖人はお生まれになりました。平家一門が隆盛を極めていたときです。父親は日野有範と
いう藤原氏の一族で、後に隠遁して、出家したと伝えられています。そして、母親は8歳
のときになられたといわれています。

お釈迦様の説かれた教えは八万四千の法門といわれるようにいろいろの人間にあわせて沢
山お経があります。そのすべては尊い教えであります、誰でも救われる教えではありません
。その中からすべてのひとが救われる道、本願念仏の教えを指し示して下さったのは、
親鸞聖人です。親鸞聖人が誕生してくださらなかったら、私が本願念仏の教えにあうことは
無かったでしょう。ようこそ、ようこそお生まれになってくださいましたという思いです。

降誕会はその親鸞聖人のご誕生をお祝いする法座です。この時にあわせて去年お生まれに
なった門信徒の皆さんの子供さんのお祝いをします。どうぞお参り下さい。

ところで私はこの4月6日に57歳の誕生日を迎えました。その日に珍しく実家の母が電
話をかけてくれました。電話口で『57歳の誕生日おめでとう』と祝ってくれました。3月
に母の誕生日だったので私が電話して『お母さん、おめでとう、何歳になられましたか』と
聞くと『さあ、いくつになったのか、もう自分の年は忘れてしまった』という返事でした。
自分の年も忘れるようなのに子供の年だけは覚えていてくれる、親というものはいつも子供
のことを忘れないものなのです。阿弥陀様も親様と呼ばれます。われわれ衆生のことを片時
も忘れず心配していただきます。

※5月14日1時より平成18年生まれのお子様の初参事を隨泉寺本堂で行います。
お隣ご近所に該当されるお子様がおられましたら、是非お誘い下さい。みんなでお祝いいた
しましょう。尚記念品の準備のため地区の役員の方にお知らせ下さい。

☆門信徒総会

5月15日朝席終了後、平成19年度門信徒会総会を開催します。18年度の事業報告、
ならびに決算、19年度の事業計画、予算等を審議してもらいます。より良い会に発展する
よう、意見がありましたら述べてください。

☆御礼

永代経懇志	金	拾萬円	古堀	千世子殿	故	古堀	博己様	特別永代経志として
永代経懇志	金	拾萬円	古堀	政子殿	故	古堀	サカノ様	特別永代経志として
永代経懇志	金	拾萬円	野村	美代子殿	故	野村	群次様	特別永代経志として

☆御礼

特別懇志	金	貳拾万円	西川	邦子殿
特別懇志	金	貳拾万円	川本	慶子殿

※7月の安居会法座のとき、婦人部主催のバザーを計画しています。協力できる方は、作品・
品物を用意していただければ有難いです。尚、収益は婦人部のバザーの会計に入れさせていた
だきます。よろしく願いいたします。

東井 義雄カレンダー 5月

生きているとばかり思っている私が生かされている

とんぼやせみのあの脱皮の痒みたくなる程のひたむきな荘厳な姿、分厚いコンクリートをひび割れさせる竹の子の生命力、人間もそういういのちの願いにもよおされて生まれ難い人間に生まれて生きている。

目があって見ることができることも、耳があって聞くことができることも、呼吸や心臓が昼夜無休ではたらき続けていることも、手や足がそれぞれ自由にはたらいてくれることも、食べものが血になり肉になり骨になり、はたらきのエネルギーになってはたらいてくれることも、みんなみんなただことではない不思議きわまることであった。生きているとばかり思っていた私が、生かされていた。



*

生きるということは、容易なことではない。ただ生かしてもらっているだけで、それは大したことなのだ。

*

実が地に落ちて芽を出し、伸び、花を咲かせ、実を結ぶ不思議ないのち、永遠のいのち。

*

眼が覚めたら生きていた。死なずに生きていた。

*

生きているということのまばゆいばかりの輝き。

*

生きているということは、死ぬいのちをかかえているということ。

*

落とせばこわれる茶碗だから、いまこわれずにあるこの茶碗のいのちが尊い。

長者原東の二川久さんの姪の方の手紙です。

二川さんが亡くなられた葬式の後にはたかされた手紙だそうです。遺族の方は大切な方をなくされて、心を落としておられるでしょう。そんなときにこんな手紙を頂くと悲しみが少し和らぐような気がします。私も縁のあるひとが亡くなられたときにこんな手紙を差し上げられたならと思い、皆さん方に参考になればと、お許しを得て掲載します。

『前略 先日は大変お世話様になりました。

次第にお寂しゅうございましょう。

ご家族の悲しみはいかばかりかと思えます。

皆さんから愛され尊敬され 信望のあつい人でした。私達もいつも頭の下がる思いでいました。今はお浄土から皆様のことを暖かく見守ってくださることと思えます。

叔母様はじめ忠君、明君や、清君のご家族の一生懸命の手厚い看護があったこときつと喜んでくださることと思えます。本当に素晴らしい結束力ですね。私達も感心しました。11日（日）には見舞うつもりでいましたのに とても残念です。

やり残されたことも沢山おありだったでしょうに、それにひろみちゃん、夏子ちゃん、さやかちゃんのきれいな花嫁姿もきつと見たかったことでしょう。みんないい娘さんになって あともう少しというところで……。

男のお孫さんもそれぞれ立派に成長。

先を楽しみにしていらしたことでしょう。

叔母様は叔父様の分までお元気で長生きしてくださいね。 私達はお世話

になり放しで何の恩返しも出来ません。何かお手伝い出来る事があれば役

には立ちませんが声をかけてください。皆さんもくれぐれもお体に気を付けてください。

合掌

二川 恵美子

二川 マスヨ様

追伸

伺っておけば良かったことが沢山……。

予想もしなかった悲報が余りにも早く残念でなりません。

いただいたお花を祖父(久太郎)の墓へお供えし叔父様がお浄土へお還りになったことを報告するつもりです』

今を惜しむ

されば道人は 遠く日月を惜しむべからず

ただ今の一念 むなしく過ぐる事を惜しむべし

もし人来つて 我が命 あすは必ず失わるべしと

告げ知らせたらんに きょうの暮るるあいだ

何事かたのみ 何事か営まん

我らが生けるきょうの日 なんぞその時節に異らん ……

無益の事をなし 無益の事をいい 無益の事を思惟して

時を移すのみならず 日を消し

月をわたつて一生を送る 最もおろかなり

(兼好 法師)

